

平成25年度 茅ヶ崎市市民討議会報告書

テーマ

「みんなの住民投票～考えよう！ちがさきの投票ルール～」

茅ヶ崎市「市民討議会」実行委員会

目次

実行委員長あいさつ	1
1 市民討議会の実施概要	
(1) 日程等	2
(2) 討議テーマと情報提供	2
(3) スケジュール	2
2 市民討議会の討議のヒント	
(1) 討議1「投票で決めてみたいような課題にはどのようなものがありますか」	3
(2) 討議2「どのような人が投票できるようにするべきでしょうか」	3
(3) 討議3「どうしたらみんなが投票に行くようになるでしょうか」	4
3 市民討議会の提言のまとめ	
(1) 討議1「投票で決めてみたいような課題にはどのようなものがありますか」	5
(2) 討議2「どのような人が投票できるようにするべきでしょうか」	11
(3) 討議3「どうしたらみんなが投票に行くようになるでしょうか」	17
(4) 討議のまとめと書記の感想	23
4 アンケートの結果	
(1) 事前アンケート	25
(2) 事後アンケート	28
(3) 不参加者アンケート	32
5 茅ヶ崎市「市民討議会」実行委員会の動き	33
あとがき	34

実行委員長あいさつ

茅ヶ崎市における市民討議会の取り組みは、今回で5回（別の方式による実施も加えると6回）の開催を数えるにいたりました。その結果が、本書により報告されます。回を重ねることだけが重要だというわけではありませんが、5年間にわたる市民討議会の実績は、多様な市民参加手法の構築にむけて、意味あるものとなっていると信じます。

茅ヶ崎市市民討議会は、2009年5月の「調印式」を嚆矢^{こうし}としています。その時、茅ヶ崎市、公益社団法人茅ヶ崎青年会議所、文教大学湘南総合研究所が市民討議会を協働で開催する申し合わせとともに、この協定が締結されました。これ以降、市民討議会はこの三者の協力により、実行委員会を組織する方法によって継続されてきました。

さて、第5回の討議会は、「みんなの住民投票～考えよう！ちがさきの投票ルール～」がテーマとして設定されました。毎回のことですが、実行委員会では茅ヶ崎市から提案された「テーマの種」（討議会を実施したい理由）をもとに、テーマ設定の議論を繰り返します。そして、グループ討議の方向性を検討します。今回も、同じ準備過程を経ました。そして、当日は参加者のみなさまにより、熱心な討議がおこなわれました。

それゆえ、市民討議会により得られた意見は、着実に行政活動につながっていくよう希望します。もちろん、市民参加に完璧な手法があるとは考えられません。したがって、多様な手法を併用した市民意見の聴取と、市の諸会議を経由した慎重な議論は、自治体の意思決定過程に必要となります。この発想に立脚し、討議会から発せられる市民の意見が、決定手続き上の意義深いコミュニケーション材料となっていくよう願います。

最後に、この場をお借りし、討議会の成立にご協力下さった方々に御礼を申し上げたく存じます。まず、市民討議会に参加して下さった市民のみなさまに。討議会は、参加者のご協力なしには実施できません。熱意ある討議に、あらためて感謝いたします。次に、討議会の招待状にたいして出欠確認書やアンケートを返送して下さいましたみなさまに。その結果も、本報告の内容に含まれています。そして、実行委員諸氏に。情報提供者、茅ヶ崎市担当者、青年会議所メンバー、文教大生のそれぞれが、見事に役割に徹してくれました。さらに、服部茅ヶ崎市長に。市民討議会へのご理解と毎回の適切なアドバイスゆえの開催となりました。ありがとうございました。

第5回 茅ヶ崎市「市民討議会」実行委員長
山田 修嗣（文教大学 国際学部）

1 市民討議会の実施概要

(1) 日程等

- ア 日 時 平成25年6月30日(日) 10時00分～17時00分
イ 会 場 高砂コミュニティセンター
ウ 参加者 30名
エ 主 催 茅ヶ崎市「市民討議会」実行委員会
(文教大学湘南総合研究所及び公益社団法人茅ヶ崎青年会議所で構成)

(2) 討議テーマと情報提供

- ア 全体テーマ
「みんなの住民投票～考えよう！ちがさきの投票ルール～」
イ 個別テーマ
討議1「投票で決めてみたいような課題にはどのようなものがありますか」
討議2「どのような人が投票できるようにするべきでしょうか」
討議3「どうしたらみんなが投票に行くようになるでしょうか」
ウ 情報提供
○討議1 「住民投票について」
(情報提供1回目：関東学院大学法学部教授 出石稔氏)
○討議2 「投票資格者について」
(情報提供2回目：関東学院大学法学部教授 出石稔氏)
○討議3 「どうしたらみんなが投票に行くようになるでしょうか」
(情報提供3回目：茅ヶ崎市総務部行政総務課 課長補佐 佐野敦樹)

(3) スケジュール

- 10:00 開会、主催者挨拶
10:10 趣旨、進行及び経緯の説明
10:25 アイスブレイク (○×クイズ)
10:55 情報提供①
11:10 グループ討議①
12:05 グループ討議①の内容発表・投票
12:30 【昼食休憩】
13:15 情報提供②
13:35 グループ討議②
14:20 グループ討議②の内容発表・投票
14:55 【休憩】
15:05 情報提供③
15:25 グループ討議③
16:20 グループ討議③の内容発表・投票
16:50 1日の振り返り
17:00 閉会

2 市民討議会の討議のヒント

(1) 討議１「投票で決めてみたいような課題にはどのようなものがありますか」

内容	参加者への質問
自己紹介	お名前、お住まい、情報提供を聞いた感想など
課題出し	あなたが「投票」によって決めたいと考える課題はありますか？ (ちがさき、このまちのなどのキーワードを含めて) →グループでいくつでも出し合ってください。
まとめ	提出されたそれぞれの課題から、実際に投票してみたい事柄を選んでください。 →課題群から、いくつでも、実際に投票で決めてみたい案件を選んでください。 →なぜその案件を選んだのですか。話し合いの経過を教えてください。

(2) 討議２「どのような人が投票できるようにするべきでしょうか」

内容	参加者への質問
自己紹介	お名前、お住まい、情報提供を聞いた感想など
課題出し	討議１の討議・発表をもとにして、あなたが関心をもった課題や今から話しあってみたい課題を発表してください。 (グループの中から１つ選んでください。) ※当日、次の３つの仮想的な課題を例示し、各グループで選択し、検討することとした。 ①日本に原発が必要かどうか、電力消費する立場で市の意見表明をしたい ②茅ヶ崎市に原子力発電所の立地計画が持ち上がったが、市の意思を表明したい ③津波対策として、他の予算を大幅に削ってでも防潮堤を作るべきかどうか。
選んだ課題についての住民投票資格について	選んだ課題について、投票資格を考えましょう。 理由とともに話し合ってみてください。 (年齢は何歳から投票できるようにすべきでしょうか) (国籍は日本人に限定すべきでしょうか、外国人も含めるべきでしょうか)
まとめ	このグループでの年齢、国籍について設定が決まりました。 選んだ課題以外の課題についても検討してみてください。 (このグループの設定はどの課題にも適用できるものでしょうか？) (課題が異なると別の設定が必要でしょうか。) 理由を含めて、話し合ってください。

(3) 討議3「どうしたらみんなが投票に行くようになるでしょうか」

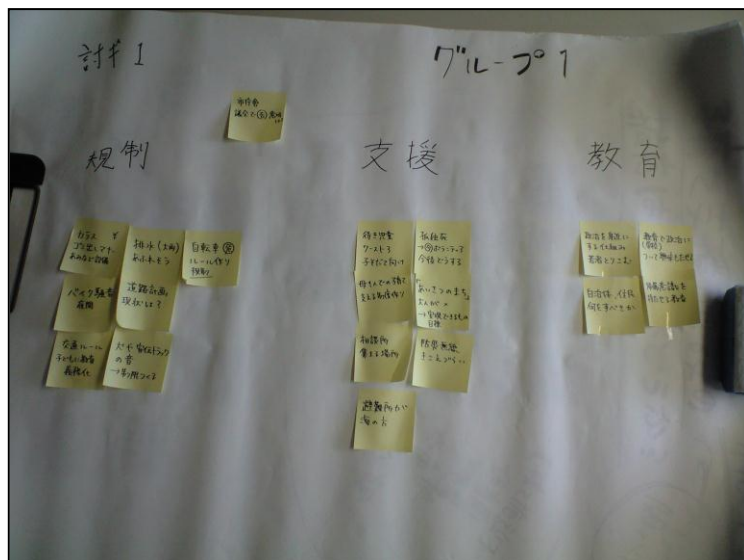
内容	参加者への質問
自己紹介	お名前、お住まい、情報提供を聞いた感想など
課題出し	住民投票は、投票率も問題になります。 住民投票と聞いたときに、投票しようと思う人たちの気持ちを考えてみましょう。(国政選挙などを思い返して、わたしたちはなぜ、投票にでかけるのでしょうか) →発言内容を分類してみましょう 反対に、住民投票と聞いても、投票に行かない人の気持ちを考えてみましょう。(なぜ、投票にでかけないと思いますか) →発言内容を分類してみましょう では、投票に行こうという人の気持ちを維持し、行かない人たちの気持ちを高めるにはどのようにしたらいいと考えますか。 (目的や争点の伝達はどうしたらいいのでしょうか?) (投票に行きやすい仕組みとはどのように考えられますか?) (インセンティブ要因にはどのような物が考えられますか?)
振り返り	最後に、今日の討議全体を振り返りつつ、私たち市民が投票することの重要性を話しあってみましょう。 (あなたなら、投票することの重要性を、どのように説明しますか?) (住民投票が茅ヶ崎市でも重要な制度であることを、どのようにお感じになりましたか?)

3 市民討議会の提言のまとめ

(1) 討議1「投票で決めてみたいような課題にはどのようなものがありますか」

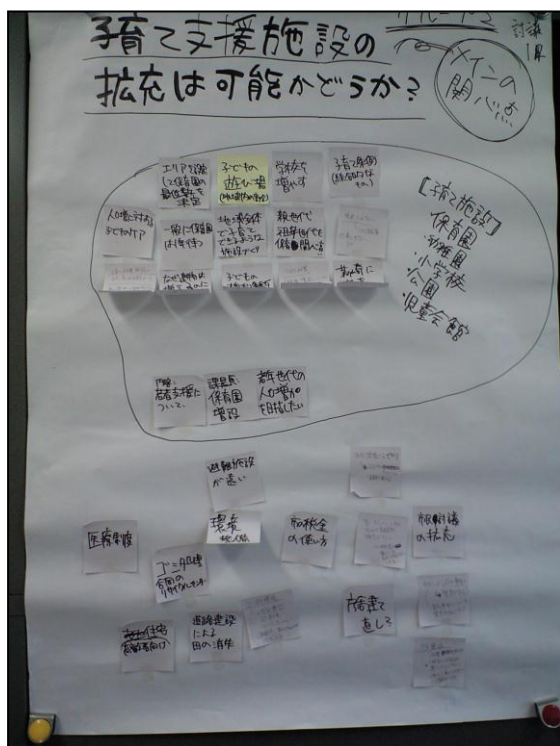
討議① グループ1	
提案された課題	・バイクの騒音 ・大雨で水があふれる ・相談所や集会所がほしい ・自転車のマナー ・待機児童の問題、育児のしやすい環境づくり ・市庁舎の改築 ・災害避難所について ・鳥害(カラス等)対策にかかわる費用負担 ・犬、防災放送の騒音
課題に対する解決策	<教育> ・授業や道徳に取り組む ・「教育」と投げ捨ててしまうのはNGでは ・投票に関しては教育が必要、政治を身近にする仕組み <規制> ・自転車→ルール・規制に関する条例 ・鳥害対策に関わる費用負担は賛否や規模が変わる ・騒音規制 <支援> ・育児→制度作り ・相談所設置
討議に関する指摘	・個人の話に終始しがちで、住民投票としての課題がわからない ・対角線上の人の声が聞こえない ・発表の仕方が緊張する ・討議の前に会の意味や事前説明がほしい

【グループ1で作成したシート】



討議① グループ2	
提案された課題	子育て支援施設の拡充は可能かどうか？ (＊グループ2での主たる関心事項) ・待機児童 保育園に入るには1年待たなければならない、保育園少ない、横浜市は待機児童ゼロ ・医療制度、保険制度 ・茅ヶ崎市子ども権利条例・子育て条例 (その他の課題) ・ごみ処理場の建設 ・市庁舎の建て替え ・ゴミ出しの問題(カラス)→ 景観の問題 ・災害対策(避難所建設) ・観光地開発 ・環境整備 道路建設による田の減少 ・医療制度 ・避難施設が遠い ・市の税金の使い方
課題に対する解決策	・エリアを設け、各々保育園の最低数を決定する ・子供の遊び場づくり ・保育園・学校を増やす 公園、児童会等も ・地域全体で子育てできるような施設づくり、親・祖母世代の参加 ・若者への支援、若者の増加
討議に関する指摘	・細かいことを議論するのは市民が大変 ・特別疑問を持つことがない

【グループ2で作成したシート】



討議① グループ3	
提案された課題	<経済・財政> ・茅ヶ崎の農業を外に出す ・財政難 <災害> ・防災 避難所の増設 ・避難所生活 <市庁舎の建設 耐震化> <医療・衛生> ・救急の増設 ・市民病院の民営化 ・ゴミ出し問題…カラス被害等、汚い ・野良猫の餌やり <電力・原発・風力> ・維持管理にお金がかかる <その他> ・少子高齢者問題 ・騒音の問題
課題に対する解決策	・お金の使い方を見直す ・市政情報の開示
討議に関する指摘	・具体的に茅ヶ崎に当てはまる問題は出しにくい ・質問が難しい

【グループ3で作成したシート】



討議① グループ4	
提案された課題	・ 情報開示の方法（市政の情報が行き届いていない） ・ 市庁舎の建て替え ・ 道路計画について、道が狭い、道が舗装されない橋の老朽化 ・ 自転車のマナー（自転車の免許制） ・ ゴミ捨てについて（有料ゴミ袋の導入） ・ 高齢者住宅の建設の是非 ・ 防災 地震・津波
住民投票に関する意見	・ テーマによっては住民投票もナンセンス ・ （問題解決において）Y e s かN o の二者択一は危険性がある ・ 別の方法で市民の意見を吸い上げる必要性がある
討議に関する指摘	・ みんなの気持ちが集中するテーマがない ・ 質問が難しい ・ 事前に十分な勉強、知識が必要 ・ 身近な問題は今のところない

【グループ4で作成したシート】



討議① グループ5	
提案された課題	<ゴミ問題> ・ゴミの収集方法 ・高齢者は出すだけで大変 ・玄関前に一軒ずつ取りに来てほしい ・ゴミ出し有料化 <建物> ・市庁舎の建て替え（情報が無い） <税収> ・人口少ない ・医療費 金銭不足 <環境> ・公害問題 ・山側の建設問題 ・原発問題 <道路> ・道路の補強 ・地域の安全（街灯の設置） ・私道との区別 <災害> ・地震対策 ・津波予防 ・避難場所
課題に対する解決策	・多様な情報公開が必要
討議に対する指摘	・市を二分する問題が無い

【グループ5で作成したシート】



討議① グループ6	
提案された課題	<都市計画> ・町が古い 町が遅れているイメージ ・道路が狭い ・市庁舎の建て替え ・個人商店の活性化 ・米軍の夜間飛行訓練の騒音 ・近未来的な視野の計画 <自転車> ・自転車の講習会 ・自転車の免許制度 <その他> ・自治会参加者と非参加者の情報格差 ・住民生活のマナー ・緑化などの環境格差 ・長期在住者と短期在住者の知識格差
討議に対する指摘	・住民投票のハードルが高い ・住民投票のテーマを考えるのは難しい ・二者択一ではなく四択でもいいのでは ・市民全体の共通課題はあまりない

【グループ6で作成したシート】



(2) 討議2「どのような人が投票できるようにするべきでしょうか」

※次の3つの仮想的な課題を例示し、検討することとした。個別の課題を選択して検討を行っても、全部の課題について検討を行っても可とした。なお、以下の表中においては略記する。

- ①日本に原発が必要かどうか、電力消費する立場で市の意思表示をしたい
- ②茅ヶ崎市に原子力発電所の立地計画が持ち上がったが、市の意思を表明したい
- ③津波対策として、他の予算を大幅に削ってでも防潮堤を作るべきかどうか

討議② グループ1	
提案された意見	・有権者（20歳以上）＋居住外国人 ・茅ヶ崎でやるのだから在住者で ・影響範囲内 ・地元と直結する問題は有権者の年齢を下げてもいい ・若い人たちには意識の高い人がいる ・若年層の将来にかかわる問題は年齢を下げてもいい（16歳以上） ・計画によって影響を受ける人（納税者） 在勤・在学者も ・年齢分布を知りたい
設定された課題に対する結論	①日本に原発が必要かどうか →有権者（18歳以上）と定住外国人（納税・住民票） ②茅ヶ崎市に原子力発電所の立地計画が持ち上がった →16歳以上の住民＋茅ヶ崎市の在勤・在学者＋定住外国人 ③津波対策としての防潮堤 →16歳以上の住民＋茅ヶ崎市の在勤・在学者＋定住外国人
討議に対する指摘	・何を聞きたいのかテーマの意図を知りたい

【グループ1で作成したシート】



※討議2、討議3においては、全体でビー玉を使用した投票を行いました。その重量をg単位で表示し、参加者の支持率を表しています。投票結果はあくまで討議会の場における投票であり、必ずしも実際の決定に対し優位があるという意味ではありません。

※ビー玉は、1人あたり5個を配布しています。

獲得ビー玉重量

188g

討議② グループ2	
提案された意見	・住民は当然 ・職場が茅ヶ崎にあれば資格有り ・市民の中には税金を払っていない人もいる ・地域に問う課題ではない ・若い人にも考えてもらいたい（義務教育修了者等） ・納税額による ・年齢の下限があるなら、上限があってもいいのでは ・外国人は定住者なら良し
設定された課題に対する結論	①日本に原発が必要かどうか → 15歳以上の住民＋在勤＋永住・定住外国人 ②茅ヶ崎市に原子力発電所の立地計画が持ち上がった → 15歳以上の住民＋在勤＋永住・定住外国人 ③津波対策としての防潮堤 → 納税・年金を払っている市民

【グループ2で作成したシート】

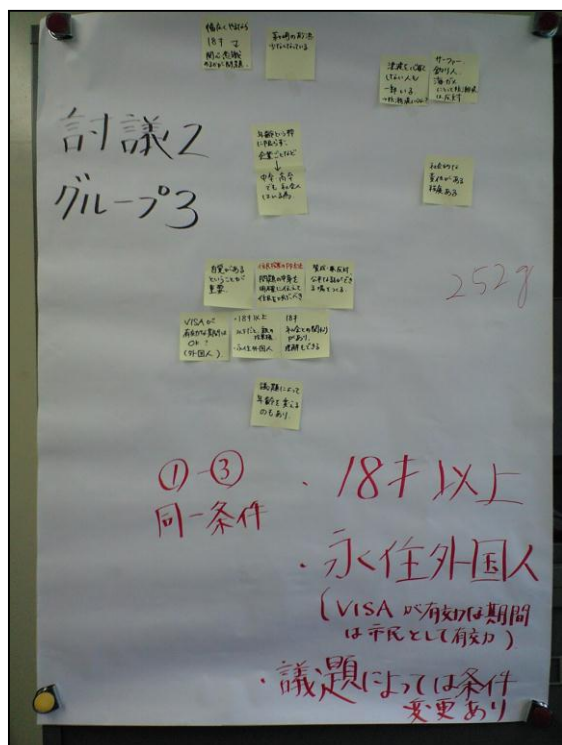


獲得ビー玉重量

300 g

討議② グループ3	
提案された意見	・ 現在の問題は20歳以上、2、3年後のことを決めるときは18歳以上 ・ 18歳以下の人は自分の意見に責任が持てないのでは ・ 1年以上滞在している外国人 ・ (グループとして) 18歳以上の人 ・ 住民投票をする前に市の問題を知る機会がほしい ・ 内容によっては投票の対象年齢を変えるべき ・ 外国人はビザが有効な期間は市民として認める ・ 18歳以上は社会的な責任がある程度ある ・ 年齢という枠にこだわらず企業ごとなど ・ 中卒・高卒でも社会人はいる ・ 自覚があるというところが重要 ・ 議題によって年齢設定を変えるのもあり
設定された課題に対する結論	①日本に原発が必要かどうか ②茅ヶ崎市に原子力発電所の立地計画が持ち上がった ③津波対策としての防潮堤 → 18歳以上の住民＋永住・定住外国人（ビザ有効期間はOK） → 議題によっては条件変更あり 〈設定された仮想的な課題に共通した結論〉

【グループ3で作成したシート】



獲得ビー玉重量

252 g

討議② グループ4	
提案された意見	・税金に関する課題以外なら16歳以上 ・16歳を含むことで投票率が下がるのではないか ・安易な意見を出されても不安 ・参加できる経験を与えるべき ・社会人レベル、反対意見をとれる年齢…20歳 ・(18歳含む)働いていける年齢 ・納税している人 ・あまりにも重要な問題で、高校生に権利を与えるのは心配 ・個人より企業が多く電気を使っている ・社員ではなく企業の代表に投票権を ・重要な問題なので高校生に権利を与えるのはいい考えではない
設定された課題に対する結論	①日本に原発が必要かどうか →18歳以上の住民+外国人 ②茅ヶ崎市に原子力発電所の立地計画が持ち上がった →有権者(20歳以上) ③津波対策としての防潮堤 →18歳以上+外国人

【グループ4で作成したシート】

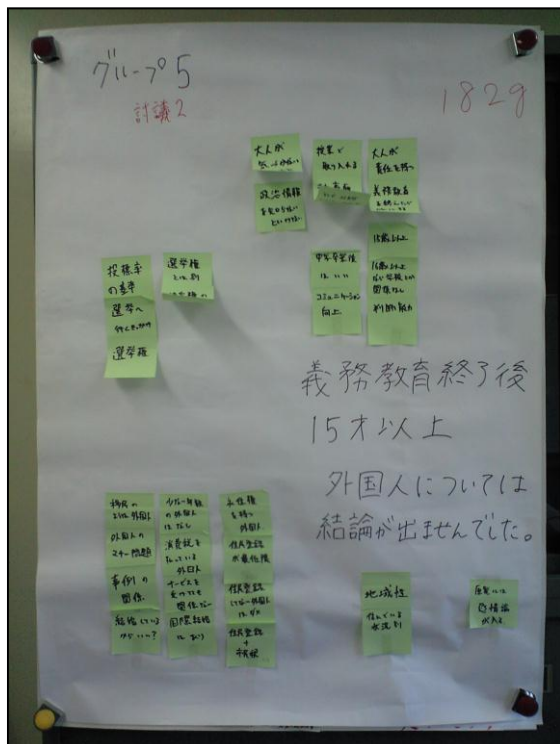


獲得ビー玉重量

233g

討議② グループ5	
提案された意見	・大きな判断をするのであれば子供を入れるのはどうなのか ・永住権があり、税金を払っていれば投票できてよい ・外国人は帰化していればよい ・18歳以上が良いのでは ・子供は生活に責任を持っているわけではない ・中学生を入れたら面白い（大人が気付かない視点 教育的側面） ・夫婦で一方が日本人ではよいのでは ・外国人が投票する必然性はあるのか ・外国人でも夫婦の一方が茅ヶ崎市民なら権利有 ・消費税を払っている外国人 ・住民登録していない外国人はダメ ・義務教育を終えた住民
設定された課題に対する結論	①日本に原発が必要かどうか ②茅ヶ崎市に原子力発電所の立地計画が持ち上がった ③津波対策としての防潮堤 →義務教育終了後の15歳以上の住民 外国人投票権については結論出ず ＜設定された仮想的な課題に共通した結論＞

【グループ5で作成したシート】



獲得ビー玉重量

182g

討議② グループ6	
提案された意見	・ 意志を持っているならば若い人でも参加してもよい ・ 16～18歳の枠を作ってみたら面白い ・ 観光客は論外 ・ 15歳以上+外国人 ・ 在勤・国籍 ・ 18歳+外国人も含めた税金を払っている人 ・ 18歳+定住外国人 ・ 18歳は判断能力があるのか ・ 国政にかかわることは議会が決めればよいのでは ・ 選挙権に準じていれば良いのでは ・ 人生に大きな影響を与えうることに関してなら中学生以上 ・ 案件内容で年齢の線引きをするべき ・ 税金を払っている人 ・ 案件ごとに条件を変えると複雑になる ・ 権利と責任のバランスが大事
設定された課題に対する結論	①日本に原発が必要かどうか ②茅ヶ崎市に原子力発電所の立地計画が持ち上がった ③津波対策としての防潮堤 →住民税を払っている18歳以上の定住者（外国人も含む） ＜設定された仮想的な課題に共通した結論＞

【グループ6で作成したシート】



獲得ビー玉重量

200 g

(3) 討議3「どうしたらみんなが投票に行くようになるでしょうか」

討議③ グループ1	
提案された意見	・行かないとき罰則を作ればよいのでは →理由が様々なので望ましくない 〈原因〉 ・市民意識がない、無関心 ・若い人は忙しい ・情報が入ってこない ・年齢別にいかない理由が違うのでは 〈場所〉 ・スーパー等で投票 生活圏での投票 ・家をまわる回収方式 ・投票場所を増やす（駅・コンビニ・スーパー・行政施設・病院等） 〈時間〉 ・投票できる期間を長くする 一週間 ・受付時間を24時間化 〈情報〉 ・情報提供、宣伝のツールを増やす、期間の延長 ・メール配信 ・ティッシュ配り、スーパー等での掲示、レシートに印字 ・防災無線 〈付加〉 ・メリット感とワクワク感を作る ・景品や懸賞、抽選券、ポイント

【グループ1で作成したシート】



獲得ビー玉重量

206 g

討議③ グループ2

提案された意見

- ・住民投票まで問題を持っていけない
- 〈手段とアプローチ〉
 - ・広報・告知・宣伝
 - ブログ・ツイッター・メール等のネット
- 〈投票資格者〉
 - ・選挙等意識が薄い
 - ・どうせ変わらないという意識
- 〈テーマ設定〉
 - ・身近なテーマなら投票率も上がるのでは
- 〈公示について〉
 - ・論点を整理して表示
 - ・ポスターはもっと派手で自由でもいい
- 〈投票方法〉
 - ・訪問投票 コンビニ投票
 - 出かけるのは面倒 投票に行けない人
 - ・お祭りにできれば
- 〈告知〉
 - ・投票による決定で何が変わるのか逐一告知する

【グループ2で作成したシート】



獲得ビー玉重量

171g

討議③ グループ3

提案された意見

〈若者〉

- ・なぜいけないのか考えさせる
- ・ネットを使ってアピール ネット利用者多い
- ・弁当・お金等の特典

〈昔〉

- ・昔は投票について義務感があった
- ・20歳は大人だから

〈選挙のイメージ〉

- ・堅いイメージ
- ・根本的に選挙を変える

〈投票方法〉

- ・忙しくて投票できない
- ・インターネット投票、投票期間を2日にする
- ・ポスター
- ・訪問投票

〈投票の意味〉

- ・投票に行かなかった人は次の年から税金を上げる、
- ・ペナルティを課す
- ・買物券を上げる
- ・行っても変わらない、「どうせ投票しても…」というイメージ

〈本質〉

- ・投票率が低いのはなぜだめなのか、投票しないことも一つの意志
- ・投票は権利
- ・投票率が低いほうがいいと思っている政党はあると思う

【グループ3で作成したシート】



獲得ビー玉重量

214g

討議③ グループ4

提案された意見

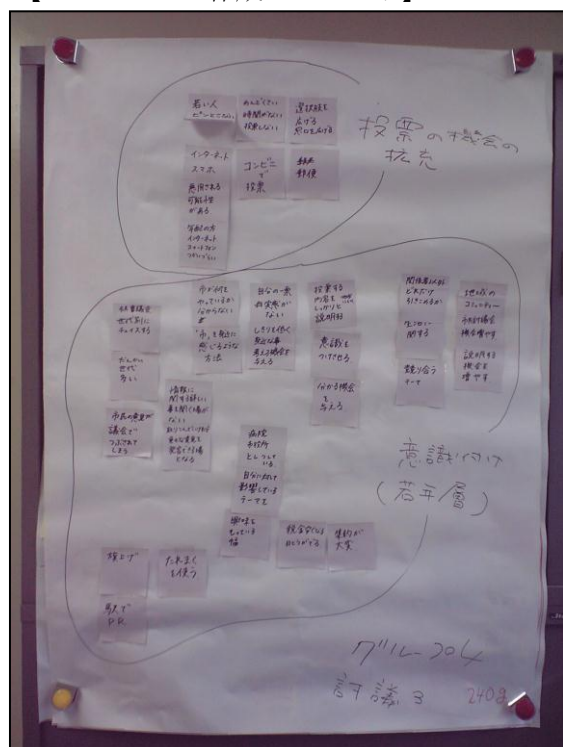
〈投票の機会の拡充〉

- ・インターネット
→一方では危険（悪用・年配の方は使いづらい）もある
- ・コンビニ、スーパーでの投票

〈意識づけ〉

- ・自分の一票の実感がない
- ・宣伝
- ・テーマに対する興味 身近なテーマにする
- ・テーマの内容をしっかりと説明する
- ・税金が安くなる等の手当て
- ・駅でPRする
- ・市民の意見が議会につぶされてしまう
- ・情報を聞く場がない
- ・投票をすると税金等が安くなる

【グループ4で作成したシート】



獲得ビー玉重量

240 g

討議③ グループ5

提案された意見

〈投票方法〉

- ・若者は時間がない
- ・コンビニ投票 郵送投票 自宅投票 ネット投票
- ・車で回収 自治会役員の回収

〈賞罰〉

- ・無投票はN o 扱い
- ・ペナルティ
- ・コミュニティバスの回数券
- ・商品券
- ・3回累積で行かないと市民税を1500円上げる

〈広報（イベント性を持たせる）〉

- ・情報 ツイッター・フェイスブック
- ・若者の発信（ポスター作り）
- ・SNSでの広報
- ・お祭り感覚
- ・メリット（バス回数券・商店街の商品券）
- ・要介護のかたも投票できるように
- ・意識をもたせる

【グループ5で作成したシート】



獲得ビー玉重量

312g

討議③ グループ6

提案された意見

〈行かない原因・行く理由〉

- ・ 場所・日時が指定されていて不便
- ・ 都合つかない、投票に行くより優先されることがある
- ・ 遊ぶ時間のほうが大事
- ・ 身体的に行けない
- ・ 身近に感じない、結果が目に見えない
- ・ 選挙運動がうるさい
- ・ 投票所の雰囲気が重い
- ・ 何か変えることができるという期待感があるから行く
- ・ 義務・権利だから行く
- ・ 興味がない
- ・ 投票に行く仲間がほしい
- ・ 芸能人など知っている人の投票なら興味を持てる

〈投票方法〉

- ・ 何かのついでに投票できるような仕組み
- ・ 小さくまとめて投票する、コミュニティレベルでの投票
- ・ 回覧板を使う
- ・ 回収に集まる

〈宣伝〉

- ・ 面白い選挙を目指す
- ・ 堅い話をもっと分かりやすく

〈フィードバック〉

- ・ 結果の評価
- ・ 何が行われたかを明確にする、目に見える結果がほしい

【グループ6で作成したシート】



獲得ビー玉重量

190g

(4) 討議まとめと書記の感想

○討議のまとめ

討議1では、地域の身近な問題も含め、多くの課題が挙げられていました。生活の専門家である市民の方の視点を知ることができました。一方で、実際に投票してみたい案件を選ぶ際には、どのような課題が住民投票に相応しいのかわからないという意見が多く寄せられました。討議を今後継続していくためには、テーマ設定をより検討する必要があると考えられます。

討議2では、年齢・国籍等の投票資格についての討議でしたが、各グループ共通して「投票権を持つに値する責任」の設定が大きなトピックとなっていました。主に「義務教育の修了、納税、住民票の有無」等が、責任の有無を分ける基準として挙げられていました。3つの想定課題ごとに資格設定を変えたグループと共通の設定にしたグループが3グループずつと意見が二分されました。

討議3では、各班共通して「投票に行かない原因」を討議の始点として、罰則・付加価値・場所増設・PR・意識づけ・教育等、多くの意見が寄せられました。一方で、自主性に任せ、「投票しないのも権利」とする意見も寄せられました。

茅ヶ崎市市民討議会実行委員会
横野拓也

○書記の感想

・運営面について

私たち文教大学国際学部生は、今回の茅ヶ崎市市民討議会に、運営スタッフとして参加をさせていただきました。参加した学生全員が、市民討議会のお手伝いをさせていただくのは初めてでした。そのような状況ではありましたが、事前に行われた模擬討議会、市民討議会、反省会と一通りの流れを実際に体験することができました。これは、私たちにとり、とても有意義な経験となりました。

模擬討議会においては、本番さながらに、5～6人ごとにグループに別れ、所定のテーマについて話し合いました。テーマの妥当性や改善点について考えるなど、事前の準備にぬかりがないように感じました。そのような事前準備があったからこそ、当日の市民討議会は滞りなく進行していったと感じています。

討議会当日は、グループ討議が終わると、テーマごとに、各グループのリーダーがグループの意見を参加者全体に対して発表する機会がありました。これは、話し合った内容を共有するために、とても重要だと考えられます。そのリーダーを誰がするかということを事前に決めているのは、討議会を円滑に進めるうえで良かったと思いました。しかしながら、「自分には大役すぎる」、「若い人がやったほうがいい」などといった理由で、リーダーが変更になっているグループを見かけることがありました。このようなとき、書記としてかわりながら、討議会のルールを守ることを徹底した方がいいのか、その場に応じて修正、変更をした方がいいのか、迷うことがありました。

・グループ討議について

討議テーマによっては、なかなか意見が出ず、テーブルが静かになってしまうこともありました。しかし、基本的にどの話し合いも市民のみなさまにとって身近な内容であり、かつ市民

の視点や立場というものを具体的に実感できる討議の設定だったと感じました。また、そのような身近なことについて話し合う市民討議会は、普段思っていることを言葉にして伝えることができる場であり、その過程の中で、市民同士が気取らずに意見を伝え合い、交流できたのではないかと思います。

討議会の後半には、議論がたいへん活発になったのは素晴らしいことでしたが、その盛り上がりゆえに、話題が本来の筋から離れてしまい、なかなか結論に至ることができなかったグループがありました。そのようなとき、茅ヶ崎青年会議所の方たち等が、適宜、議論の方向を調整してくださいました。このような、討議の適切なサポートは、重要だと思いました。一方で、話す内容の筋は多少ずれたとしても、議論が盛り上がることで「とても楽しい議論ができた」、「市について考えるきっかけになった」という意見を聞くこともできました。このように、市民の方にとっては、話し合うことが正の作用をもたらしたのではないかと思います。

その他に気がついたこともあります。たとえば、ある人がグループ内で専門的な内容を話し始めると、周りの方が議論についていけないという場面が見られたこと、また、討議中にグループの中で発言力の強い人・弱い人という隔たりができてしまうと、発言力の弱い人が強い人の主張をそのまま受け入れてしまうように感じられる場面が（グループによっては何度か）見受けられたことなどです。討議の進め方については、いっそうの検討・準備をすべきではないかと考えられました。さらに、討議会の出席者の感想でもあったのですが、参加者のうち、若年層の割合が少なかったように感じられました。

・ 討議会全体を振り返って

学生の私たちにとって、このような市民討議会のお手伝いを通じ、市民のみなさまの生の声を聞くことができたのは、貴重な体験となりました。それぞれのご発言はとても興味深く、言葉を付箋紙に書き込む作業をしながら、その意図はどのようなものか、他の言葉との関連はないかなど、あれこれ考えながら手を動かしていました。

市民討議会は、同じ市に住んでいるという条件のもとに無作為に選ばれて集まった人たち全員で、各々の意見を共有し話しあって、どんなことができるか考えられる点に大きな価値があるように思いました。それと同時に、私たちにも何かお手伝いができるかもしれないと、地域社会について考えるきっかけになりました。

最後になりますが、市民討議会の一連の流れの中でお世話になり、また、このような貴重な機会を与えてくださった茅ヶ崎市、茅ヶ崎青年会議所のみなさまに、有意義な議論をしてくださった参加者のみなさまに心より感謝を申し上げます。

文教大学国際学部 山田修嗣ゼミナール生

4 アンケートの結果

(1) 事前アンケート

(※無回答、重複回答の設問があったため、合計回答数が必ずしも一致しない)

【参加者の属性について】

F1, 職業		
①	農業・漁業	0
②	自営業・経営者	3
③	自由業	0
④	家事手伝い	0
⑤	公務員・団体職員	0
⑥	専門技術職	4
⑦	事務職	2
⑧	販売・サービス職	1
⑨	製造・労務職	0
⑩	パート・アルバイト	1
⑪	家事専業	7
⑫	学生	1
⑬	無職	11
⑭	その他	0

F2, 家族形態		
①	単身	3
②	(自身の)夫婦のみ	7
③	未婚の子どもと同居	10
④	既婚の子どもと同居	3
⑤	親世代と同居	5
⑥	三世代以上が同居	0
⑦	その他	2

F3, 住居形態		
①	持ち家（戸建）	17
②	借家（戸建）	0
③	集合住宅（分譲）	6
④	集合住宅（賃貸）	4
⑤	公営住宅	2
⑥	社宅	1
⑦	その他	0

F4, 市内での居住年数(ただし、6については重複可)		
①	1年未満	0
②	1年～5年未満	2
③	5年～10年未満	3
④	10年～20年未満	4
⑤	20年以上	18
⑥	生まれてからずっと	3

F5, 茅ヶ崎での定住の意向		
①	住み続けたい	15
②	できれば住み続けたい	9
③	できれば転出したい	1
④	転出したい	0
⑤	わからない	5
⑥	その他	0

F6, 平日の平均在宅時間(睡眠時間を除く)		
①	2時間未満	1
②	2～4時間未満	5
③	4～7時間未満	3
④	7～12時間未満	6
⑤	12時間以上	15
⑥	その他	0

【参加の動機について】

Q1, 市民討議会の手紙(参加依頼)が届いて、どのように感じましたか		
①	面白そう	10
②	良いとりくみ	11
③	新しいとりくみへの期待	10
④	選ばれてよかった	6
⑤	なぜ討議をするのか不明	2
⑥	実際に何をするのか不安	12
⑦	つまらなそう	0
⑧	とくに感想はなかった	2
⑨	その他	2

Q2, なぜ討議会への参加を決意しましたか		
①	討議会が興味深かった	9
②	テーマが興味深かった	2
③	日程的に都合がよかった	9
④	市のために協力したかった	4
⑤	市民の役割として大切だと思った	11
⑥	新しいことにチャレンジしたかった	7
⑦	市から手紙が届き参加しなければならないと思った	2
⑧	日頃から市に言いたいことがあった	1
⑨	その他	1

Q3, 謝礼の有無と参加決意の関係について、どのようにお考えですか		
①	必要だと思った(謝礼がなければ参加しなかった)	4
②	不要だと思った(謝礼がなくても参加した)	7
③	どちらとも言えない	12
④	その他	2

Q4, 謝礼の金額について、どのように思いますか		
①	多いと思った	4
②	妥当だと思った	15
③	少ないと思った	1
④	その他	6

【住民投票について】

Q5, 住民投票という制度をご存知ですか (○は1つ)		
①	名称も知っており、制度の内容もある程度は理解している	1
②	名称は知っているが、具体的な制度内容は詳しくない	19
③	知らない	5

Q6, 茅ヶ崎市でも住民投票制度の検討が行われていることをご存知ですか (○は1つ)		
①	知っており、検討内容もある程度は理解している	0
②	知っているが、具体的な検討内容は詳しくない	7
③	知らなかった	18

Q7, 住民投票が行われたとき、あなたは投票したいですか (○は1つ)		
①	ぜひともしたい	9
②	テーマにより是非を決めたい	13
③	時間が合えばしたい	3
④	したくない	0
⑤	わからない	0

Q8, 住民投票制度があれば、茅ヶ崎市にどのような利点が生じると思いますか (○はいくつでも)		
①	住民・市民の意見(日頃の考え)がはっきりわかる	9
②	市長に直接、意見を届けられることができる	4
③	議会に直接、意見を届けられることができる	8
④	市の職員に直接、意見を届けられることができる	2
⑤	議論に時間をかけず、ただちに意思決定をすることができる	3
⑥	住民・市民を巻き込んだ慎重な意思決定ができる	10
⑦	投票をめぐる議論が喚起され、市内の課題や政策が住民・市民に浸透する	10
⑧	利点が生じるとは思わない	1
⑨	わからない	3
⑩	その他	2

Q9, 討議会に期待すること、住民投票の望ましい使い方、住民投票を用いるべきテーマ、市民への呼びかけなどについて、自由にご記載下さい（意見の一部を概要で掲載）
○20 歳以上の茅ヶ崎市民×前回の選挙の投票率%×1/2=X Xを住民投票数のボーダーラインとする。実際に住民投票が可能になった場合には、このXを求める公式が必要になります。この計算式の討議がもっとも大切。
○市民活動に重要な意思を決定するための手段として、住民投票が使用されることが望ましい。むやみに住民投票が使われるべきではないので、投票対象となるテーマは慎重に決定されると良い。市民の参加率向上の手段を考えることが最大の検討事項。
○市民の意見がハッキリする制度に期待する。
○今後とも色々な討論会を開いて、市民へ情報を開示してほしい。住民投票についてさえ知らない茅ヶ崎市民が多かった。市を良くするために市民が多勢参加できるよう期待する。
○討議結果が悪用（都合の良い使われ方）されない事を望む。
○課題に対して、住民・市民の意見が幅広く出されるように参加者がリラックスした状態で発言しやすい会になることを希望する。
○市役所の建て替え、市の重要行事。
○住民投票が望ましい使われ方になるには、住民に投票制度を理解させる必要がある。次に、投票するからには住民も、テーマの内容をはっきりと把握する努力が大切。
○テーマ内容については、事前に「そのテーマ」について市ではどのような取り組みをしてきて、今の問題点、利点についての考え方が知りたい。
○テーマの賛否を住民投票に委ねる事自体、賛成しかねる。 住民投票が、投資の将来に有益な評決をできるかどうか疑問が残る。
○施政の意思決定は、あくまで市長・市議会である。 テーマによっては有識者による諮問会議（メンバーは利益代表と無関係）を組成して、市長並びに市議会に諮問することが望ましい。
○討論による意見の結果は尊重して、一時の“ガス抜き”に終わることなく、粛々と市政に活かすこと。
○市政は自治体当局と住民代表の議会決議によって執行されるものと考えて。従って政策が分かれる重要なテーマに限定すべきである。 安易に住民投票に頼るのではなく、市の行政能力を発揮すること。住民参加をうたって、NP Oなど市民活動団体と市当局が協働で住民投票を計るなどは以ての外。市政の方向が左・右に振ることを危惧する。日常生活に忙しい住民に、やたら投票を強いるのは住民には迷惑。
○財政危機で市税の値上げを求めるとき。
○市の合併に関して。
○大型事業で多額の歳出を求めるとき。
○住民投票について何も知らないので、今回の討議会に参加することによって理解が深まることを期待する。

(2) 事後アンケート

(※無回答、重複回答の設問があったため、合計回答数が必ずしも一致しない)

Q1, 今回の市民討議会について、感想や印象をお聞かせください		1	2	3	4	5
		そう思う	どちらかと言えばそう思う	いどちらとも言えない	そう思わない	そう思わない
A	市民討議会はおもしろかったですか	19	9	1	1	0
B	討議の進め方はわかりやすかったですか	13	12	3	1	0
C	進め方に関する説明は十分だと思いましたか	14	11	1	2	0
D	各回の情報提供で、討議がおこないやすくなりましたか	7	17	5	1	0
E	討議1のテーマは、話しやすかったですか	6	9	7	6	2
F	討議2のテーマは、話しやすかったですか	8	17	5	0	0
G	討議3のテーマは、話しやすかったですか	14	12	4	0	0
H	討議を通して個人意見がより成熟したと感じられましたか	10	11	8	1	0
I	グループでの意見は、十分な合意により形成されましたか	7	20	3	0	0
J	投票によって得られた意見は、満足のいく内容でしたか	7	16	6	1	0
K	市民討議会は市民の声を反映させるのに有効な手法と感じましたか	9	14	6	0	1
L	討議に参加して、市民が「まちづくりの主役」という印象が強まりましたか	5	18	5	1	1

Q2, グループごとの話し合いは、円滑に進みましたか		
①	円滑に進んだ	15
②	やや円滑に進んだ	14
③	どちらとも言えない	0
④	やや行き詰まったときがあった	1
⑤	何度も行き詰まった	0
⑥	その他	0

→どのようにすれば、より活発な討議が出来ると思いますか。下欄にお書きください。

(意見の一部を概要で掲載)

○各討議でグループを変更しなければ、回を追うごとにスムーズな議論が行えるのではないかな。
○事前の説明。
○グループでの議長や補佐がいれば、脱線しても戻りやすいかもしれない。
○より身近な討議内容であれば良い。
○ある程度、テーマが与えられている方が討議に入りやすい。 テーマが大きすぎると、なかなか意見が出にくい。
○情報提供時に質問等できたらもっとわかりやすく、討議に生かすことができたかもしれない。
○テーマの選択に苦慮していたが、もっとよりよいテーマを提供すべき。
○参加者からの質問、異論の出る場が必要。

○テーマが決められ討議しやすい面もあったが、このような討議会を広めていく事が大切。実行委員会の方々を初め、文教大学の学生の方のフレッシュな存在でリラックスできた。
○少人数だったから自分の意見も発表できた。
○同じテーマで少なくとも2回ぐらい今日のような日があれば良い。
○趣旨を各自が理解して、横道にそれないように、リーダーがリードしていくべき。
○年齢的に若い人が少なかった。若い人の意見も聞きたかった。
○テーマの選択がポイント。ビー玉投票は不要。
○具体的なテーマがないと適当な意見になってしまう。又、外の市・町で課題になっているテーマを掲げることも工夫のひとつではないか。
○情報提供が大事。本を読んでいるような話の仕方は頭に入らない。こちらにもパワーポイントの内容を配って欲しい。話す人はわかりやすく具体的に自分の言葉で語ってほしい。
○本日の進行で良い。
○十分話しやすかった。
○このような方法で回を重ねていくこと。
○全体に時間をもう少しほしい。

Q3, 討議の際、1つのテーマについて平均して何回くらいお話しされましたか		
①	10回以上	10
②	7～9回	6
③	4～6回	10
④	1～3回	2
⑤	0回	0
⑥	わからない	2

Q4, 市民討議会ではじめて顔を合わせる他の市民との会話について、どのように感じましたか(○はいくつでも)		
①	さまざまな考え(発想)が聞ける楽しさ	18
②	さまざまな世代の意見が聞ける楽しさ	16
③	同じ茅ヶ崎市民としての共感や連帯感	16
④	はじめて会う人との会話における抵抗感	1
⑤	意見を言うのになれておらず、話しにくい感じ	0
⑥	その他	0

Q5, 今後、同様に市民討議会の案内が届いた場合、何を条件に参加を決めますか		
①	日程	13
②	内容・テーマ	14
③	謝礼の有無と金額	4
④	案内があればぜひ参加したい	9
⑤	条件を問わず参加しない	0
⑥	その他	0

Q6, 市民討議会に参加して、謝礼の金額について、どのように思いましたか		
①	多いと思った	3
②	妥当だと思った	17
③	少ないと思った	0
④	その他	8

Q7, 討議をふまえて、住民投票の重要性をどのようにお感じになりましたか(○はいくつでも)		
①	住民・市民の意見(日頃の考え)をはっきり示すことができる	16
②	市長に直接、意見を届けることができる	8
③	議会に直接、意見を届けることができる	5
④	市の職員に直接、意見を届けることができる	3
⑤	議論に時間をかけず、ただちに意思決定をすることができる	3
⑥	住民・市民を巻き込んだ慎重な意思決定ができる	7
⑦	投票をめぐる議論が喚起され、市内の課題や政策が住民・市民に浸透する	10
⑧	重要性があるとは思わない	2
⑨	わからない	1
⑩	その他	0

Q8, 住民投票が行われたとき、あなたは投票に参加したいと思いますか(○はいくつでも)		
①	ぜひとも参加したい	18
②	テーマにより参加の是非を決めたい	11
③	時間が合えば参加したい	1
④	参加したくない	1

Q9, 住民投票が有効に使われるために、市民としてできること、考えるべきことをどのようにお感じになりましたか（意見の一部を概要で掲載）
○自治体、学校単位で住民投票の機会についての教育、周知を行い、意義を認識する必要がある。
○このような機会をもっと増やして、市民に参加意識を植え付けると良い。
○情報提供もされているので、受け手側も、市政・行政に関心をもっていきたい。
○市の活動にもうすこし意識をおいて、市民として活動したい。 問題意識を持つようにするなど、市に対して協力できることを増やす。
○市政に活かされたか、市長・議会を見守っていく。
○自分の事として受け入れることが大事。そのため市民が簡単に参加できる企画が必要。
○あらゆることにアンテナを常にめぐらせていくことが、まずは大事。
○日頃から市の課題や政策について、個人がもっと関心を持つことが必要。 市として、こういった方向性で動いていくのかをもっと市民に情報開示すべき。
○周りの人と話をする（家庭でも仕事場でも）。
○有効に使われるかどうか判らない。
○もっと、市のことについて興味を持って知ることから始めたい。
○市政に関心を持ち続けること。
○市民の意見がよく議論され、話し合いの場が多く持たれると良い。
○住民投票におけるプロセスが少し分りかけてきた。
○住民投票に関する情報を得たときには、しっかりと目を通し、考えていきたい。
○住民投票が実施されるまでに市民の啓蒙が肝要。
○投票に参加し、投票率を上げることが必要。
○1人1人の市民の声を反映させる事が大事である。
○内容をよく見聞き判断したい。
○地区別に人選しても良かった。
○市民として当然。
○市政に対して今迄以上に関心を持ちたい。

Q10, 市民討議会に参加して感じたこと、市民討議会に期待すること、日頃から大切に考えている地域社会に貢献できること、市民には出来そうにないと思ったことなど、自由にご記入をお願いします。(意見の一部を概要で掲載)
○よりライトな内容の討議を学生にやって欲しい。
○今回の議案、皆から出された意見をどう市議会の中で反映されていくのか。
○若年層の参加率が低いように感じられた。もっと若者をこの会に参加してもらおうと将来が見えてくるかもしれない。
○安心して生活できる市に期待する。
○もっとたくさんの人に同じ経験をして欲しいため、この企画の回数を増やすことを期待する。参加するまでは市の職員しか行政に関わることはできないと考えていた。
○この市民討議会がすでに6回行われているとのことだが、今日も含めて、この結果・内容がどのように市政等に反映されるのか疑問。
○市民討議会に初めて参加したが、こういった機会をテーマ別にもっと開くべき。参加することで、市民である意識がより高まる。
○若年層にアピールする様な市民討議会をする事で関心を持ってもらう。
○民意の反映となるか。
○地域社会に何か貢献できることはないかと考えていたところに、良い機会が与えられた。
○時間があれば、とりあえず参加するのも良い。
○いろいろと勉強になった。若い人達にこそ、こういう場を多くしてほしい。
○日頃、これ程、市民だと実感した事がなかった。私達から出た気持ちや考えが、届いているという分かりやすい提示が欲しい。
○若い有権者にも、このような機会を持ってほしい。
○グループの構成を変えて討論検討すると、より良くなる。
○振り返りの教授の話が良かった。自分達の責任として討議会に参加することを心掛けたい。
○テーマの選定がポイント。
○市が将来ビジョンを話すことが大切。
○自分の意見を述べやすいムードだったのがよかった。 自分と違う世代の人との意見交換ができてよかった。
○とてもよい機会。人の意見を聞くことは、楽しい。アンケートの項目多すぎる。
○初めて会った方々でもよく話し合っ発表にも助けてもらい、とても感謝した。
○出来る限りの事が優先順位でなされているものと信じたい。
○このような機会があることを知らなかった。

(3) 不参加者アンケート

(※無回答、重複回答の設問があったため、合計回答数が必ずしも一致しない)

●あなたご自身のことについて教えてください

1 年代		
①	20 歳代	19
②	30 歳代	33
③	40 歳代	34
④	50 歳代	46
⑤	60 歳代	55
⑥	70 歳代	33
⑦	80 歳代	21
⑧	90 歳代以上	3
	無回答	1
	合計	245

2 性別		
①	男性	74
②	女性	141
	無回答	30
	合計	245

●市民討議会について伺います(いずれも複数回答あり)

1 市民討議会について、知っていましたか		
①	よく知っている	3
②	少し知っている	19
③	言葉を聞いたことがあった	56
④	初めて知った	165
	無回答	5
	合計	248

2 茅ヶ崎市市民討議会の案内が届いたとき、どのように感じましたか		
①	面白そうに思った	51
②	不思議に思った	94
③	分からない	74
④	その他	18
	無回答	10
	合計	247

3 スケジュールについて		
①	丸 1 日は長時間に感じる、半日程度だったら参加したい	74
②	土・日曜日は都合が合わない	45
③	今回は都合が合わない	107
④	その他	48
	無回答	20
	合計	294

4 今回参加されなかった理由は何ですか		
①	日程が合わなかったから	114
②	興味のないテーマだったから	27
③	行政の事業には興味がないから	8
④	面倒だから	29
⑤	その他	75
	無回答	11
	合計	264

5 次回、このようなイベントの案内が届いたら、どうしますか		
①	日程が合えば、参加する	70
②	興味のあるテーマならば参加する	98
③	できれば参加したくない	55
④	その他	35
	無回答	8
	合計	266

5 茅ヶ崎市「市民討議会」実行委員会の動き

- (1) 茅ヶ崎市「市民討議会」開催に関する協定の締結（４月１日）
- (2) 平成２５年度第１回茅ヶ崎市「市民討議会」実行委員会（４月８日）
 - ・平成２５年度市民討議会のテーマの具体的な検討
 - ・市民討議会の実施に向けた準備
（実施日程、全体スケジュール、無作為抽出数、市民への招待状）
- (3) 第２回茅ヶ崎市「市民討議会」実行委員会（４月２３日）
 - ・市民討議会のテーマ等の検討
（全体テーマ、個別テーマ、情報提供者）
 - ・市民討議会の実施に向けての検討
（実施日程、市民への招待状）
- (4) 第３回茅ヶ崎市「市民討議会」実行委員会（５月１４日）
 - ・市民討議会のテーマ等の検討
（討議全体の流れ、個別テーマ・キーワード、アイスブレイク、スケジュール）
 - ・市民討議会の承諾状況等
（承諾状況、抽選の実施方法）
- (5) 第４回茅ヶ崎市「市民討議会」実行委員会（６月４日）
 - ・市民討議会のテーマ等の検討
（討議テーマ・討議内容、アイスブレイク、当日のスケジュール）
 - ・案内状等について
（案内状、事前アンケート、事後アンケート）
 - ・模擬討議会の実施について
- (6) 市民討議会事前アンケートの発送（６月１３日）
- (7) 模擬「市民討議会」の実施（６月１４日）
- (8) 市民討議会に向けた最終打ち合わせ（６月２５日）
 - ・市民討議会のテーマ等の確認
（討議テーマ・討議内容、アイスブレイク）
- (9) 市民討議会「みんなの住民投票～考えよう！ちがさきの投票ルール～」開催（６月３０日）
市民討議会事後アンケート実施
- (10) 第５回茅ヶ崎市「市民討議会」実行委員会（７月２３日）
 - ・市民討議会の振り返り
（運営、討議の内容、アンケート結果）
 - ・報告書の内容、役割分担の確認
 - ・次回開催への取り組みについての検討

あとがき

茅ヶ崎で行われる市民討議会は5回目を数えます。現在、全国各地で市民討議会が実施されていますが、茅ヶ崎市においては、市、茅ヶ崎青年会議所、文教大学の3者の特色を生かし、協働し、実行委員会を作り市民討議会を実施しております。

毎回、800名の方を無作為抽出して、延べ4,000名の市民の方に案内状を送付しており、これまでに約200名の方に参加をいただいたこととなります。まだまだ、市民のみなさまへの認知度は低いかもしれませんが、市民の意見を聞く手法の一つの方法として、茅ヶ崎市では確立してきております。

市民討議会以外にも、市政への市民参加の場はたくさんあります。パブリックコメントやワークショップなど様々な方法がありますが、それらは積極的で、市政への参加意識の高い方が参加される方法だと思われます。市民討議会の特徴は「市民のみなさまの声なき声を聞くことができる」という点にあり、無作為抽出で行いますので、市政について様々な意識を持った、茅ヶ崎の縮図という形で実施される特徴があります。

今回、「みんなの住民投票～考えよう！ちがさきの投票ルール～」をテーマで行いました。参加承諾率は3.75%と前回の8.63%に比べると下がっていることが注目をすべき点であります。不参加者のアンケートの中で、日程の次に、興味があるテーマであれば参加するという回答が高く、テーマが市民討議会の参加の重要な要因であることが分かります。今回、参加いただいた方においても、「住民投票」について、詳しく内容を知っている方はわずかということで、難しく感じるテーマであったことも承諾率低下の原因であると思われます。しかし、実際行われた「茅ヶ崎の投票ルール」についての討議では、討議会が求めている、少数の人数のディスカッションを行い、コミュニケーションを通じた、市民参加という形での市民のみなさまの声を聞くということでは成功しております。それと同時に参加された方が市民討議会に参加したことを通じて、市政への参加意識を醸成できたことは、市民討議会の実施の大きな意味がある事と実行委員会では考えております。今回の報告書、アンケート結果をご覧になっていただければと思います。

最後に市民討議会の成立には、市民のみなさまの承諾があつて初めて成立するものであります。参加されたみなさまが貴重な時間を割いていただき、参加いただいたことに実行委員会一同、大変感謝いたします。

公益社団法人茅ヶ崎青年会議所
米山 聖一

平成25年度茅ヶ崎市市民討議会報告書

「みんなの住民投票～考えよう！ちがさきの投票ルール～」

平成26年1月発行

編集 茅ヶ崎市「市民討議会」実行委員会

発行 茅ヶ崎市「市民討議会」実行委員会

茅ヶ崎市新栄町13番29号

公益社団法人茅ヶ崎青年会議所内